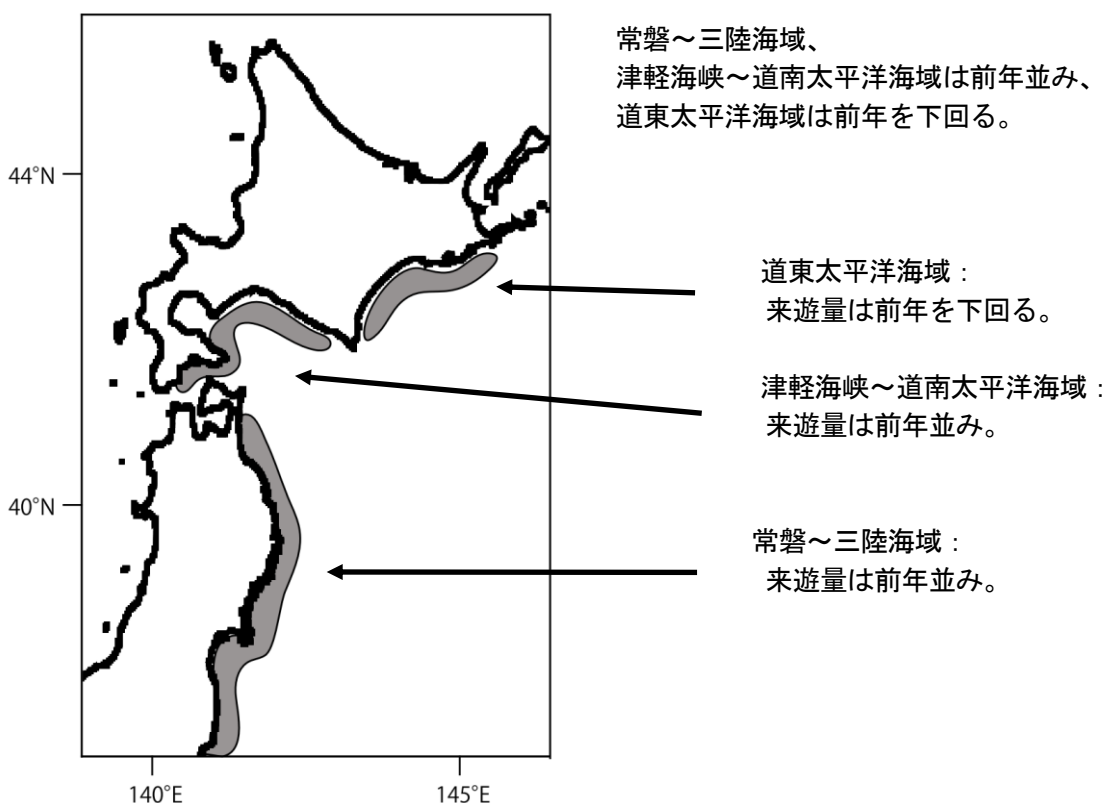


2023年度 第1回 太平洋スルメイカ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2023年9月)のポイント



問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 水産情報部
担当：緑川、渡邊
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<https://www.jafic.or.jp/information/category/gyokyo/>

国立研究開発法人水産研究・教育機構
<https://abchan.fra.go.jp/>

2023年度第1回 太平洋スルメイカ中短期漁況予報

今後の見通し（2023年9月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群（2023年級群）

1. 常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網、まき網）

(1) 来遊量：前年並み。

(2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

2. 津軽海峡～道南太平洋海域（いか釣り、定置網）

(1) 来遊量：前年並み。

(2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

3. 道東太平洋海域（いか釣り、底びき網）

(1) 来遊量：前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：群がまとまらず漁場形成は散発的となる。

I 予報の説明

第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報公表後の漁況の経過等を主要な情報として、9月におけるスルメイカの来遊量を予測すると、常磐～三陸海域では前年並み、津軽海峡～道南太平洋海域では前年並み、道東太平洋海域では前年を下回る。各海域における見通しは以下の通りである。

1. 常磐～三陸海域

漁獲対象資源は、太平洋沿岸域を北上する群を主体に、津軽海峡から来遊する日本海由来の群が含まれると考えられる。太平洋第1次スルメイカ漁場一斉調査では、三陸周辺海域（41°N以南、143°E以西）では漁獲がなく、CPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）は前年を下回った（図1）。

6～7月の青森県白糠港～宮城県石巻港全体における小型いか釣り漁船の漁況について、6～7月の漁獲量及びCPUE（1日1隻当たり水揚量）は前年を下回った。

8月上～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、以下の通りであった。青森県の白糠港、泊港、三沢港、八戸港における合計漁獲量は前年を下回り（前年467.2トン、本年111.7トン）、CPUEも前年を下回った（前年0.31トン/隻/日、本年0.12トン/隻/日）。岩手県主要7港における合計漁獲量は前年を下回り（前年39.5トン、本年4.4トン）、CPUEも前年を下回った（前年0.08トン/隻/日、本年0.02トン/隻/日）。宮城県（石巻・気仙沼）における小型いか釣りによる合計漁獲量は前年を下回り（前年1.7トン、本年0.04トン）、CPUEも前年を下回った（前年0.08トン/隻/日、本年0.01トン/隻/日）。青森県白糠港～宮城県石巻港全体における小型いか釣り漁船による漁獲量は前年を下回り（前年508.4トン、本年116.2トン）、CPUEは前年を下回った（前年0.25トン/隻/日、本年0.11トン/隻/日）。一方、8月下旬に入り、漁獲は上向いている。

三陸周辺海域における5月下旬～6月下旬の第1次漁場一斉調査では漁獲がなく、小型いか釣り漁船のCPUEは前年を下回った。以上のことから判断すると、太平洋沿岸域を北上した群れの来遊量は前年を下回ったと判断される。

6月下～7月中下旬に三陸～道東沖合域で実施された表層トロールネットによる調査（三陸～道東沖合域におけるスルメイカの加入量把握調査）の結果を図2に示す。この調査によると、三陸周辺海域（41°N以南、143°E以西）における漁獲のあった調査点のCPUE（60分曳網あたり漁獲尾数）は前年を上回っており、今後新たな群れが加入してくる可能性がある。

以上の調査結果およびこれまでの漁況経過より、9月における常磐～三陸海域への来遊量は前年並みと予測される。

2. 津軽海峡～道南太平洋海域

漁獲対象資源は、太平洋沿岸を北上する群と津軽海峡から来遊する日本海由来の群が含まれると考えられる。津軽海峡東口周辺海域（41°N以北、143°E以西）における第1次漁場一斉調査でのCPUEは前年を下回った。

6～7月における小型いか釣り漁船の漁況は、大畑港、函館港の全体で見ると、6～7月の漁獲量は前年を下回った。

8月上～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、大畑港、函館港における合計漁獲量は前年を下回り（前年25.5トン、本年3.6トン）、CPUEも下回った（前年0.07トン/隻/日、本年0.02トン/隻/日）。

津軽海峡～道南太平洋海域における第1次漁場一斉調査でのCPUEは前年を下回った。6～8月中旬における漁

況から判断すると、当海域への来遊量は前年を下回ると考えられる。一方、前述のように表層トロールネットによる調査結果では、三陸周辺海域における漁獲のあった調査点の CPUE（60 分曳網あたり漁獲尾数）は前年を上回っており（図 2）、今後新たな群れが加入してくる可能性がある。

以上の調査結果およびこれまでの漁況経過より、9 月における津軽海峡～道南太平洋への来遊量は前年並みと予測される。

3. 道東太平洋海域

漁獲対象資源は、沖合域を北上する群と考えられる。第1次漁場一斉調査における沖合域（143° E以東）での CPUEは0.01尾で前年を下回り、有漁点割合は前年を下回った（図1）。

6～7月において道東海域では小型いか釣り漁船による水揚げはなかった。また8月上～中旬における小型いか釣り漁船による水揚げはなかった（前年1.8トン）。

なお、6月下旬～7月中上旬の三陸～道東沖合域における表層トロール調査では、東経143° 以東の沖合域で前年よりも調査地点が多いが、まとまった漁獲がみられた場所もあり（図2）、今後新たな群れが加入してくる可能性がある。一方、FRA-ROMS II*による9月上旬、下旬の道東沖の50m深予測水温は、北上する暖水の勢力が引き続き強く、本海域の東側まで広く水温が高くなることが予測される（図3）。そのため、北上してくる新たな群れは、本海域外にも広く分布し、道東海域では群がまとまらない可能性がある。

以上の調査結果およびこれまでの漁況経過より、9月における道東太平洋の来遊量は前年を下回ると予測される。

* 国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始した海況予測システム。本予報には、2023年8月29日にホームページに記載されていた予測情報を使用した。

II 各海域の漁況経過（6～8月中旬）

2023年6～8月中旬の宮城県以北の太平洋沿岸主要港での漁獲量（生鮮：速報値、一部未集計）は402.7トンで、前年（1391.3トン）を下回った。

1. 常磐～三陸海域

青森県（白糠港、泊港、三沢港、八戸港）、岩手県（主要7港）、宮城県（気仙沼港、石巻港）における2023年6～8月中旬の合計漁獲量は387.4トンで、前年（1317.5トン）を下回った。

旬別の漁況の経過を図4-1に示す。

2. 津軽海峡～道南太平洋海域

大畑港、函館港における2023年6～8月中旬の合計漁獲量は33.3トンで、前年（72.0トン）を下回った。旬別の漁況の経過を図4-2に示す。

3. 道東太平洋海域

道東4港（十勝港、釧路港、厚岸港、花咲港）における2023年6～8月中旬の合計漁獲量は0トンで、前年（1.8トン）を下回った。

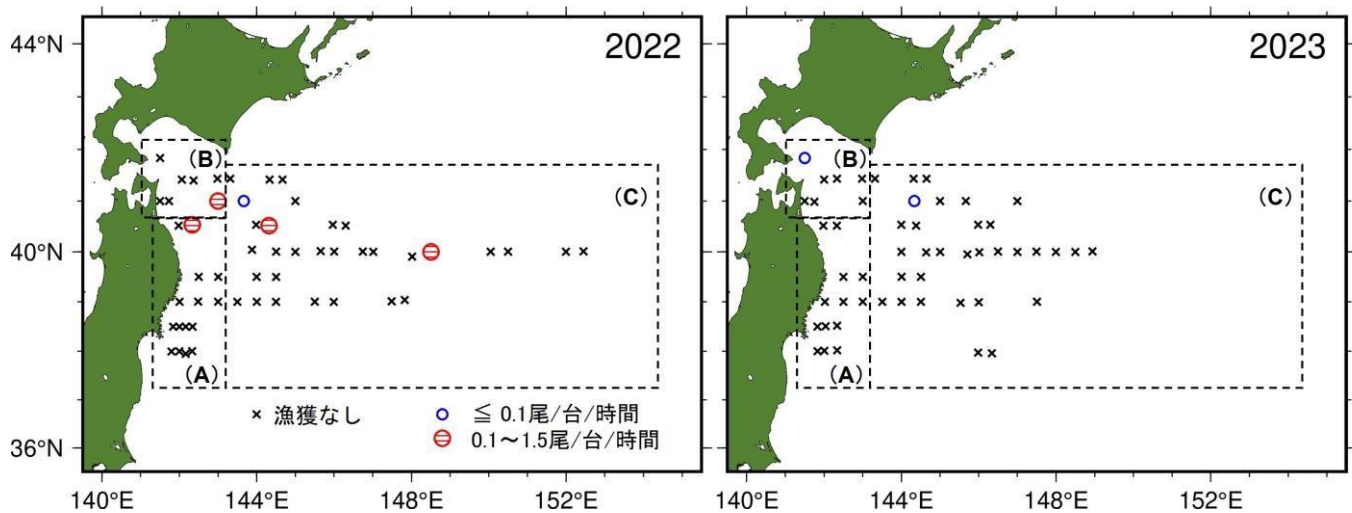


図1. 2022年、2023年5月下旬～6月下旬の太平洋におけるいか釣り調査によるスルメイカのCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の分布
 ⊖ は0.1～1.5尾/台/時間、○ は0.1尾/台/時間以下の有漁点、×は漁獲なしを表す。破線で囲まれた海域は（A）三陸周辺海域、（B）津軽海峡～道南太平洋海域、（C）沖合域を示す
 （2023年度第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報図1を転載）

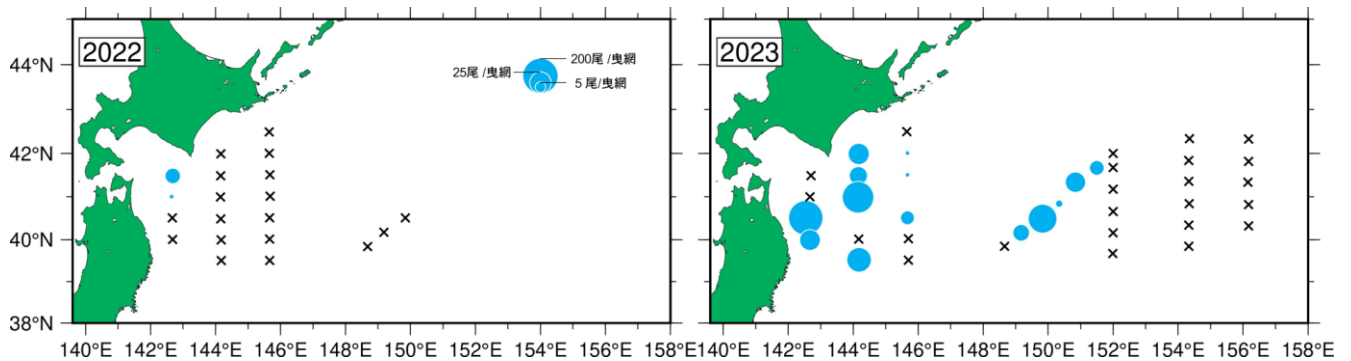
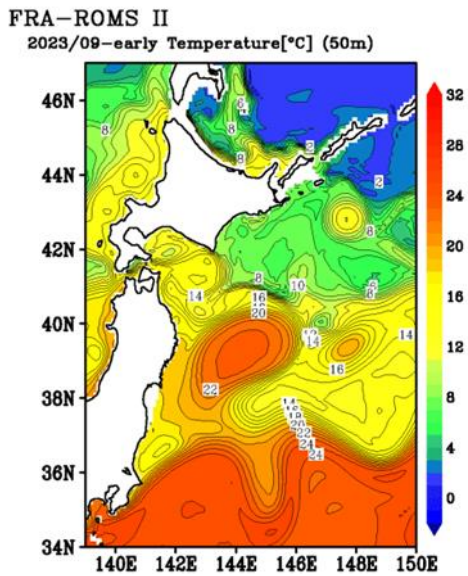
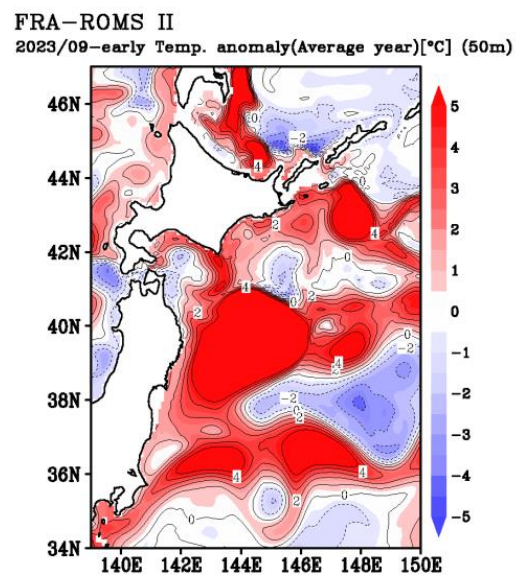


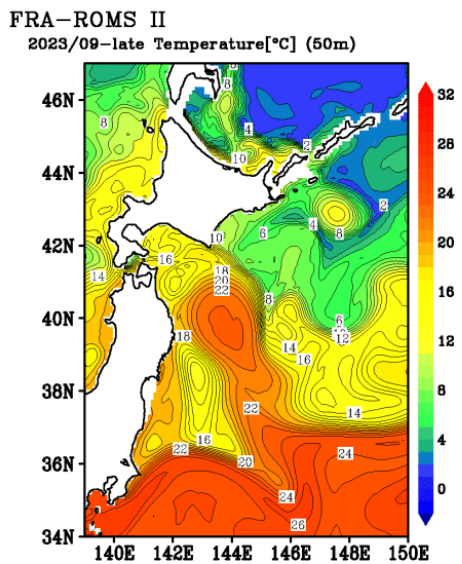
図2. 2022年、2023年6月下～7月中下旬の三陸～道東沖合域における表層トロール調査によるスルメイカのCPUE（60分曳網当たり漁獲尾数）の分布
 丸の大きさはCPUE、×は漁獲なしを表す。
 （国立研究開発法人水産研究・教育機構が調査実施）



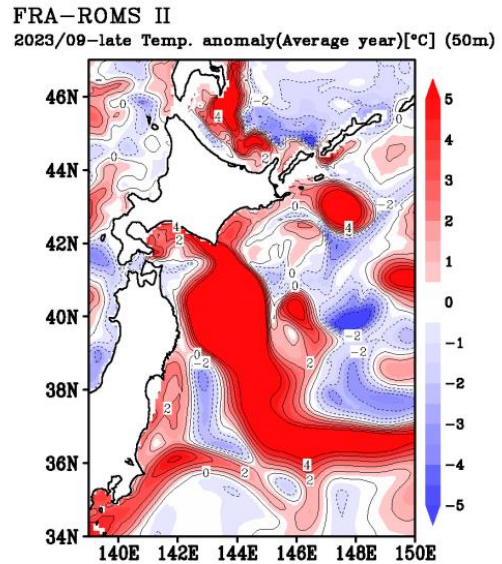
2023年9月上旬50m深予測水温



2023年9月上旬50m深予測水温平年差



2023年9月下旬50m深予測水温

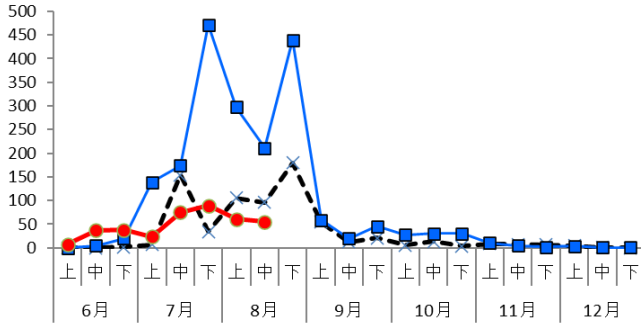


2023年9月下旬50m深予測水温平年差

図3. 海況予測システムFRA-ROMS IIによる2023年9月上旬と下旬の50m深予測水温(左図) および平年差(右図)

注：50m深はスルメイカの代表的な分布深度

漁獲量(トン)



CPUE(トン/隻)

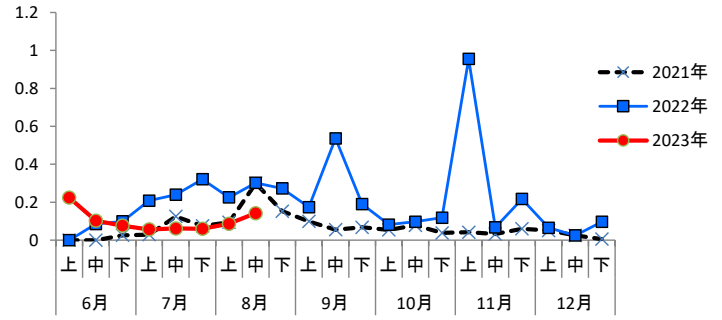
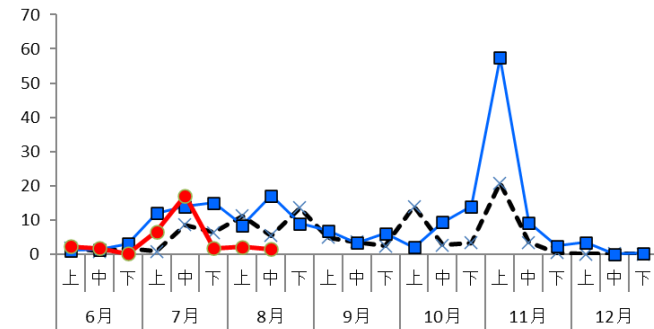


図4-1. 常磐～三陸海域の主要港におけるスルメイカの釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

漁獲量(トン)



CPUE(トン/隻)

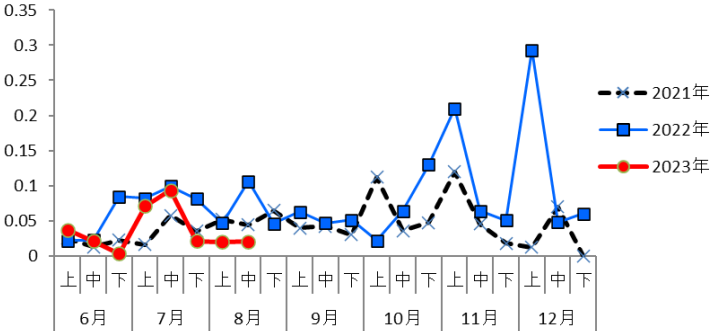
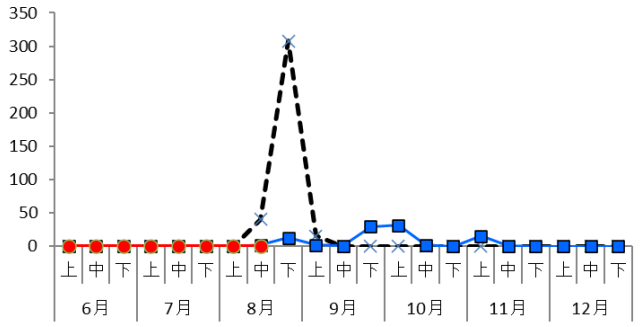


図4-2. 津軽海峡～道南太平洋の主要港におけるスルメイカの釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE
(主要港：函館港・大畑港)

漁獲量(トン)



CPUE(トン/隻)

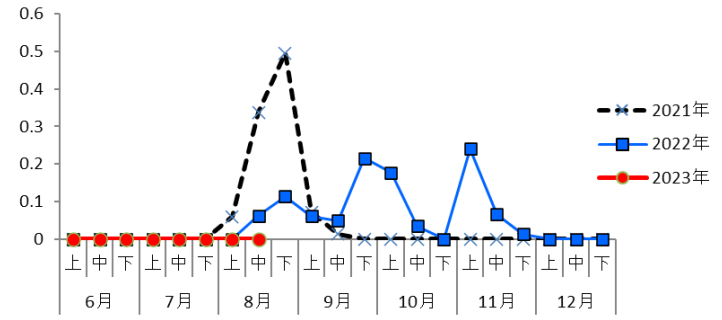


図4-3. 道東太平洋の主要港におけるスルメイカの釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

注：CPUEは1日1隻当たりの漁獲量（トン/隻/日）

参 画 機 関

| | |
|---|----------------------------------|
| 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場 | 三重県水産研究所 |
| 地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所 | 和歌山県水産試験場 |
| 岩手県水産技術センター | 高知県水産試験場 |
| 宮城県水産技術総合センター | 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所 |
| 福島県水産海洋研究センター | (取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター |
| 茨城県水産試験場 | |
| 千葉県水産総合研究センター | |
| 神奈川県水産技術センター | |
| 静岡県水産・海洋技術研究所 | |